

防災連載(第13回)

「火の用心」について

寒さが厳しく空気が乾燥し、火器の使用が多くなり、火災に細心の注意を払う季節です。

「火の用心」という標語は誰でも知っている言葉ですが、いつ頃から使用されていたのかご存知でしょうか。

◆日本一短い手紙で有名な「^{いっぴつけいじょう}一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

これは織田信長と徳川家康の連合軍が武田軍と戦った「長篠の戦い」で陣中から本多重次という武将が妻に宛てた手紙です。文献には、次のような内容が書かれています。

- 一筆啓上：目上の人に対する手紙の書き出しですが、妻に手紙で「申し上げます。」と言っています。奥様をいたわっていたのですね。
- 火の用心：読んでそのまま、現在でも使用されている言葉です。木造建物のこの時代、ひとたび火が出れば集落（今風でいうと住宅地）全てが消失していたようです。
- お仙泣かすな：重次の息子、長男（仙千代）を大切に可愛がってください。
- 馬肥やせ：戦場で貴重な馬、普段から手入れをして備えておいてください。

長篠の戦いが1575年ですから、今から400年以上も前に「火の用心」は使われていたことになります。「火の用心」は先人から受け継いだ偉大な標語であることがわかります。

参考までに、最近数年間の火災防火標語を掲載します。「ああ、あの年の標語だったんだ。」と思いつく標語はありますか？

年度	標語	年度	標語
H21	消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子	H27	無防備な 心に火災が かくれんぼ
H22	「消したかな」あなたを守る 合言葉	H28	消しましょう その火その時 その場所で
H23	消したはず 決めつけないで もう一度	H29	火の用心 ことばを形に 習慣に
H24	消すまでは 出ない行かない 離れない	H30	忘れてない？ サイフにスマホに 火の確認
H25	消すまでは 心の警報 ONのまま	R1	ひとつずつ いいね！で確認 火の用心
H26	もういいかい 火を消すまでは まあだだよ	R2	その火事を 防ぐあなたに 金メダル

家庭、職場での「火の用心」をお忘れなく！

登録制メールについて

町からの災害時の情報伝達や防犯情報、防災行政無線の放送内容などを、ご希望の電子メールアドレスへ配信するサービスをしております。本サービスをご利用いただくためには、メールマガジンへの登録が必要です。※登録方法が不明な場合などは総務課防災係にお問い合わせください。

真鶴町お知らせメール 登録手順(下記QRコードを読み込んでください。)

PC・スマートフォンの場合 フィーチャーフォン(ガラケー)の場合 ※読み取れない場合は、下記アドレスに空メールを送信してください。



t-manazuru@sg-p.jp

☐問い合わせ 総務課 ☎内線314